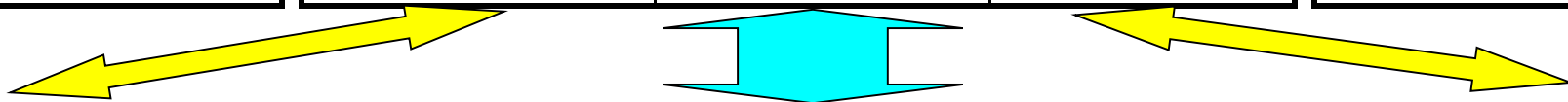


平成30年度 学力向上アクションプラン

B票

尼崎市立大成中 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組（基礎力の定着、活用力の育成）			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
<p>○市内到達度調査からみた課題（3年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語以外の4教科は市内平均を下回っている。 ・生徒の中央値が理科は20点台、英語と社会は30点台である。 →基礎学力が不足している。 <p>○学校評価アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習は平均60分以上している」生徒は35% ・「宿題は必ずする」生徒は81% →学習習慣が定着していない。 <p>・5科の授業に対して、「わかりやすく、力がついてきた」と回答する生徒は73.4%</p> <p>→約1/4の生徒は授業の改善を求めていると言える。</p>	<p>○大成スタイルの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業開始の挨拶を徹底 ・授業終わりに生徒がまとめを行う。 <p>○道徳やカリキュラム・マネジメントなどをテーマにした研修に参加し、校内の研究授業を実施する。</p> <p>【(1)講師招聘支援を活用】 【(2)先進校視察支援を活用】</p>	<p>○土曜日や放課後に学校を学習環境として提供し、個に応じた自主的な学習を行い、家庭学習に対する意識付けを行う。</p> <p>【(3)放課後等学習支援を活用】</p> <p>○インターネットを活用した家庭学習を促進する。</p> <p>【(4)学力定着支援を活用】</p>	<p>○メンター制度などを用いて、若手教員の育成を図る。</p> <p>○教員自らが主体的に研究大会等に参加し、研鑽に努める。</p> <p>【(4)学力定着支援を活用】</p> <p>○英語と数学において新学習システムの加配を効果的に活用した少人数授業を実施する。</p> <p>○ICT機器を活用した授業の工夫を推進する。</p>	<p>○市内到達度調査からみた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できる子とそうでない子の二極化が進みつつある。授業法の改善や放課後学習などを通して中央値を押し上げて、二極化の解消を目指す。 <p>○学校評価アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を60分以上する生徒の増加を目指す（35→38%） ・授業がわかりやすく、力がついてきたと思う生徒の増加を目指す。（73.4→75%）



校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
	支援内容	具体的内容	
<p>○小学校における学習内容の定着と家庭学習の習慣を身に着けるため「入学前の宿題」を作成し、卒業式前の児童に配付する。</p> <p>【(4)学力定着支援を活用】</p> <p>○入学前テストを実施し、新入生全体の学習状況や個々の学力を把握し、中学校における学習に反映させる。</p> <p>○教員間の合同研修を実施し、学習や生活面に関する共通理解を図る。</p>	<p>(1)講師招聘支援</p> <p>(2)先進校視察支援</p> <p>(3)放課後等学習支援</p> <p>(4)学力定着支援</p>	<p>○職員研修「新しい道徳の在り方」(案)</p> <p>○香川県の善通寺市立東中学校を視察(案)</p> <p>○土曜学習 2h×25週</p> <p>○月曜学習 2h×20週</p> <p>○テスト前学習会 2h×16回</p> <p>○3年夏季休業中学習会の実施</p> <p>○学習支援に使う用紙等に係る費用を支援</p> <p>○「新入生入学前宿題」作成</p> <p>○研究大会への参加</p>	<p>○定期考査や全国学力調査、学力生活実態調査などの分析を学校だよりなどを活用して適切に公表する</p> <p>○学力向上アクションプランを明示し、学習に対する本校の取り組みを理解してもらう</p> <p>○進路説明会を2年次から行うなど、早期から保護者も巻き込んだ形で学習意欲を高める工夫をする</p> <p>○地域人材を活用した放課後や土曜日学習を実施する</p>